

企画セッション

◆ 【特許庁開発プログラム】 グローバルビジネス戦略概論 ～明日のグローバル知財人材に贈る～◆

【講演者】 発表順

柴田 昌弘 (特許庁企画調査課 知的財産活用企画調整官)
田中 義敏 (東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授)
勝沼 依久 (味の素株式会社知的財産部 Executive Professional)
守屋 文彦 (金沢工業大学大学院 客員教授)

【内 容】

特許庁では、企業のグローバルな事業展開の中で国際的に活躍できる人材を育成するべく、事業戦略を具体的に推進する際に必要となる実務的な能力を習得するための英語知財研修プログラムを開発した。

このプログラムは「グローバルビジネス戦略概論」、「テクノロジーソーシング・M&A戦略」、「ライセンシングエコシステム～ライセンスによる多角的アライアンス～」、「ライフサイエンス業界の事業戦略と知財マネジメント」、「事業ポートフォリオ転換と知財マネジメント」の5科目から構成されている。

各科目概ね90分*15コマ分の教材に加え、研修・授業を効果的に運営するためのシラバス、教材指導ガイド、事前・事後学習用のe-learningも無料で提供している。

本セッションでは、開発したプログラムの概要や教材活用のポイントを紹介するとともに、その基礎となる科目である「グローバルビジネス戦略概論」のエッセンスを紹介し、グローバルな事業展開に知財や標準を活用するための基本的な考え方を紹介するとともに、今後のさらなる能力開発の契機を提供する。

なお、本プログラムは英語による講義を行うことを前提として開発されたものであるが、聴講者の便宜を考慮して今回の紹介は日本語で行うこととする。

企画セッション

◆ 【特許庁開発プログラム】グローバルビジネス戦略概論 ～明日のグローバル知財人材に贈る～◆

1. プログラムの概要紹介

プログラムを開発した背景や各科目の概要に加え、教材の活用に関与する特徴的な点について紹介する。

2. 知財戦略策定のプロセス

様々な分野で策定される戦略に共通して採用される戦略策定の基本的プロセスを紹介し、このプロセスに知財分野特有の具体的戦略事例を融合する仕組みを紹介する。多くの戦略事例集から我が社に適した事例を選択するために必要な仕組みとして、各社における知財戦略策定に活用されることが期待される。

3. 知財戦略策定の演習1 (Campbell Soupの事例)

グローバルトップ10にポジショニングされる Campbell Soup 社を題材に、SWOT 分析などを通じて強いポジションを築いた有効な知財戦略が何であるかを議論する。更に、変化をチャンスと捉えて新市場、新事業の創出につながる知財戦略を想像し、検討する。

4. 知財戦略策定の演習2 (Go Proの事例)

「アクションカメラ」というアウトドアでの撮影に適したビデオカメラを開発し、短期間で市場の覇者となった Go Pro 社を題材に、Annual Report などの資料を参考に、同社のこれからの知財戦略を考えて欲しい。まず、前半で学習した基本プロセスを利用してビジネス戦略を策定する。

以上